

第9回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず「企画シート作成上の注意」をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）キュウシュウサンギョウダイガク	フリガナ）ショウガクブ	フリガナ）マツカサ ゼミナール
九州産業大学	商学部	松笠 ゼミナール

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
フリガナ）マツカサ エーチーム	フリガナ）サイダ ショウ	7名
松笠 A チーム	才田 奨	

研究テーマ（発表タイトル）

山村留学の新たな可能性 ～福岡県新宮町相島(あいのしま)を事例に～

1. 研究概要（目的・狙いなど）

私たちの地元である福岡県粕屋郡新宮町の中心部は、駅周辺の整備やマンションの増築などにより人口が増加している。その一方で、新宮町郊外では人口が減少しているという地域格差の問題がある。著しく人口が減少している相島は、小中学生の減少による学校の廃校を防ぎたいという島民の声をきっかけに、今年4月から山村留学制度を開始した。相島での名称は、「漁村留学」という呼称を使用している。（本研究では山村留学の名称を使用する。）

『山村留学の本来の目的は様々な自然体験や農山漁村の暮らしを体験することで、子供の「生きる力」を育むこと』（2010 赤羽・佐藤）とされている。しかし、相島の山村留学の募集対象は「自宅からの通学が可能な学生」となっている。そこで、先行研究から相島の小中学生は、施設や里親のもとで生活する学生よりも経験値や自己の成長が十分に得られないのではないかと考えた。研究を通して様々な調査を行うことで、相島の「山村留学」を小中学生にとってより自己の成長につながる制度にしていこうとすることを目的として一般社団法人新宮町おもてなし協会の協力を仰ぎ新たな山村留学の生活方式を提案する。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

山村留学とは親元を離れ、1年単位で自然豊かな農山漁村で生活をしながら、自然体験活動や集団体験活動を通して、心身の健全育成と子どもの可能性を引き出す教育実践活動のことである。実施形態としては、以下の5つに分かれる。

＜実施形態＞

- ・里親方式…地域にホームステイして生活をする方式
- ・家族方式…家族で転居し、地域で生活をする方式
- ・寮方式…山村留学センターなどの寮で生活をする方式
- ・併用方式…半分は寮で生活し、残りの半分はホームステイをする方式
- ・通学方式…自宅から山村留学先の学校まで通う方式

本研究では、施設や里親のもとで生活する学生を留学生、相島の通学方式で通う学生を通学生とする。

5つの生活方式別で山村留学地域の特徴を知るために、調査・分析を行い表にまとめた。

<山村留学 実施形態別メリット・デメリット一覧表>

実施形態	メリット	デメリット
里親方式	<ul style="list-style-type: none"> ・生活する力がつく ・地域の生活文化を体験することで、交流しやすく受け込みやすい など 	<ul style="list-style-type: none"> ・里親の負担が大きい ・地域住民の高齢化により、受け入れが中止される可能性がある など
家族方式	<ul style="list-style-type: none"> ・家族ぐるみで地域交流ができる ・直接的な移住につながる ・空き家の再利用 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・親に甘えてしまうため、他の宿泊型の方式に比べて、自立性の向上を見込めない など
寮方式	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生同士すぐに仲良くなる ・共同生活の中で協調性が身につく ・テレビやゲームの依存を解決する など 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活のストレスからホームシックになることがある ・施設の維持や指導員の人件費などの費用がかかる など
併用方式	<ul style="list-style-type: none"> ・寮での集団生活では自立性や協調性が身につく、里親との生活では家庭的な雰囲気の中で地域の文化を体験できる など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームシックに陥る可能性がある ・環境の変化に慣れるのに時間がかかる など
通学方式	<ul style="list-style-type: none"> ・費用がさほどかからない ・万が一の際、親にすぐに会うことができる など 	<ul style="list-style-type: none"> ・渡船通学だと天候に左右され、登下校できない日がある ・宿泊体験による経験値を得ることができない など

(筆者作成)

島での生活や豊富な体験活動を行っている留学生の声としては、協調性や自立性などが身につく自己の成長に繋がったという意見が多く上がっていた。

一方で、通学生の声は山村留学でなくても経験できることばかりが目立った。私たちは、現状の相島の通学方式で参加する小中学生は、施設や里親のもとで生活する学生よりも経験値や自己の成長に差があるのではないかと考えた。

3. 研究テーマの課題

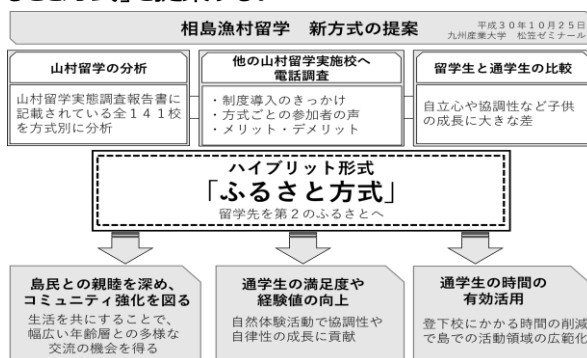
山村留学の本来の目的は地元の学校に通い地元の子供と一緒に生活を送り、様々な自然体験や農山漁村の暮らしを体験することで、子供の「生きる力」を育むことである。

しかし、相島の通学生は自宅から山村留学先の学校まで通うため、施設や里親のもとで生活する留学生よりも経験値が得られず、自己の成長に繋がらないことが課題となる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

<新方式ハイブリット形式「ふるさと方式」～留学先を第2のふるさとへ～の提案>

相島の漁村留学の経験値や自己の成長を向上させるために、従来の通学方式に里親方式を加えたハイブリッドな形式である、「ふるさと方式」を提案する。



(筆者作成)

新方式 ➡ 通学＋里親

【具体的内容】

- ・週に1度、漁村留学生が島民の家に宿泊する。
- ・里親になる島民は1年間、担当の留学生と共に生活をする。
- ・里親に支払う委託費は月額5,440円である。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

- ① 全国山村留学協会作成、平成 29 年度山村留学実態調査報告書に記載されている全 141 校の、制度開始年度を調べた。その上で、里親方式・家族方式・寮方式・併用方式・通学方式といった 5 つの実施形態別に分類し、留学にかかる費用を調査した。

また、5 つの実施形態別で一番長く実施している 4 校については、インターネット・文献・電話を用い、文部科学省が定めている山村留学ガイドラインに基づき、各校の該当率を調査した。

※山村留学ガイドライン…各山村留学実施校の様子を正確に見極めるための指標のこと。

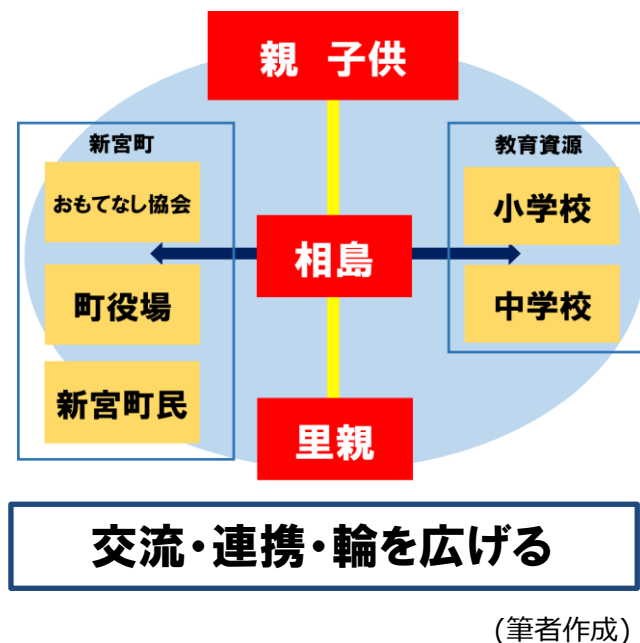
- ② 調査を行った 5 つの実施形態それぞれの中で、最も長く実施している学校にその方式を取り入れた経緯と山村留学に参加した児童の声について電話調査を行った。
- ③ 分析を踏まえ制度の発展に有効な施策を、新宮町役場・相島山村留学担当者に提案した。

6. 結果や今後の取り組み

留学生と通学生を調査、比較・分析したところ、通学生に比べ留学生の方が、成長の過程で社会性が身につく上に高い経験値が獲得できていた。さらに、山村留学でより高い効果を得るには自然の中での生活体験が必要であることがわかった。

そのため、現状の参加する子供が週に 1 度、里親の元で生活する通学方式と里親方式を加えた、ハイブリッド形式の「ふるさと方式」を考案した。

実際に新宮町役場の担当者にプレゼンテーションをしたところ、2 つの方式を組み合わせるという発想はなく、費用も妥当であるということだった。さらに、引き続き通学方式をベースにし継続する意向だが、「ふるさと方式」を参考にしつつ、来年度以降は地域の受け入れ体制を強化しながら里親方式との組み合わせを取り入れていきたいという意見をいただいた。



以上の研究で、私たちは相島の現状やニーズに対して最適な方式を提案した。

運営主体だけでなく、各組織が連携・交流することによって輪を広げ、制度の認知度や理解向上に努めることで、将来的には相島への移住につながる可能性をもった制度になると考える。

そのため、今後はさらに山村留学制度を活性化できるように、すでに動き出している新宮おもてなし協会主催の様々なイベントでの提携をはじめ、より地域間の交流促進につながる取り組みを行ってきたい。

7. 参考文献

<主要参考文献>

- ・赤羽克子・佐藤可奈 『山村留学の実践に関する研究--暮らしの学校「いだらぼっち」の事例』P58 聖徳大学 2003 年
- ・青木孝安 「山村留学 :生まれ変わる子ども・親・村」農山漁村文化協会 2016 年
- ・伊藤秀美・山口博子 「自然の中で心を育てる山村留学 ある山里小学校の教育と生活の記録」 J B B 出版 1986 年
- ・浦田義和・田中豊治 「アジア・コミュニティの多様性と展望—グローバルな地域戦略—」昭和堂 2008 年
- ・嘉村友里恵 「山村留学研究の動向と課題」長崎大学水産・環境科学総合研究科 2013 年
- ・農林水産省 農林水産政策研究所 「山村留学の現状と課題 —平成 15 年度全国アンケート調査報告書—」アサヒビジネス株式会社 2005 年

・真坂昭夫「エコツーリズムを学ぶ人のために」世界思想社 2011年

・三好淳二「山村留学へ行きませんか」悠光堂 2015年

<主要参考 URL>

・新宮町公式 HP: <https://www.town.shingu.fukuoka.jp/> (2018/11/28)

・公益財団法人育てる会 HP: <http://www.sodateru.or.jp/> (2018/11/30)

・全国山村留学協会山村留学ガイドライン: <https://www.sanryukyo.net/guide/check/1.php> (2018/12/2)

・NPO 法人全国山村留学協会 HP: <https://www.sanryukyo.net/> (2018/12/2)

・全国山村留学協会平成 29 年度全国の山村留学実態調査報告書:

<https://www.sanryukyo.net/tyousa-h29mono.pdf> (2018/10/7)

・全国山村留学協会平成 20 年度全国の山村留学実態調査報告書:

<https://www.sanryukyo.net/tyousa-h20.pdf> (2018/10/7)

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

●発表時に使用する成果物 (例. 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート)

【企画シート作成上の注意】 ※「第9回 西日本インカレ (合同研究会) 大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。

・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。

・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

・本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更 (チームの人数・交代など) は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

・企画内容は、未発表の (過去に他誌・HP などに発表されていない) ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先 (使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など) を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。

・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。